

日常生活における乾燥感に関する研究

研究目的

住宅の高断熱・高气密化と常時換気により、冬季間でも暖かでクリーンな室内環境を実現しつつある一方で、近年は室内の乾燥感に悩まされる居住者が大幅に増大しています。乾燥感、鼻や喉、皮膚の乾きといった不要素にとどまらず、健康面においても風邪にかかりやすくなる、アトピー性皮膚炎などのアレルギー症状が悪化するといったことにもつながっており、道民の健康を損なう深刻な問題と捉えられます。

健康で快適な住環境を形成するために、室内環境と居住者の乾燥感の実態及び乾燥感の健康への影響を把握し、また居住者の乾燥感とそれを生み出す室内環境条件の関係を明らかにします。

研究概要

本研究では、①北海道の住宅に住む居住者が冬季の室内環境の乾燥についてどのように捉えているのか、また、乾燥感と住宅の設備、性能等との関連が見られるのか、②室内環境によって乾燥感に違いが見られるかどうか、③室内環境の変化が乾燥感に影響を及ぼしているかどうかを検討しました。

このため a.北海道内の住宅に住む居住者の乾燥感、健康被害についての実態を把握するための居住者アンケート調査、b.住宅の室内環境と乾燥感の関係を探るための室内環境測定とアンケート調査、c.室内環境の変化と乾燥感の関係を分析する室内環境測定とアンケート調査を行ないました。

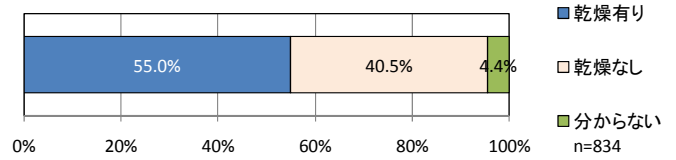


図1 冬季の乾燥感の有無

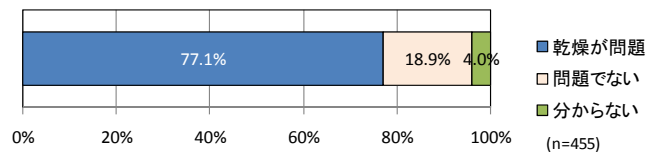


図2 乾燥感の捉え方

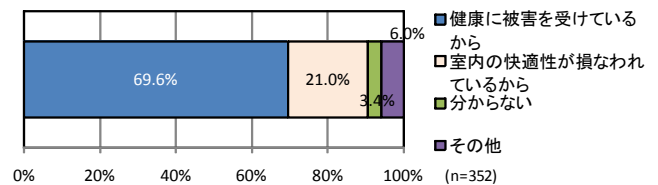


図3 乾燥が問題と感じる理由

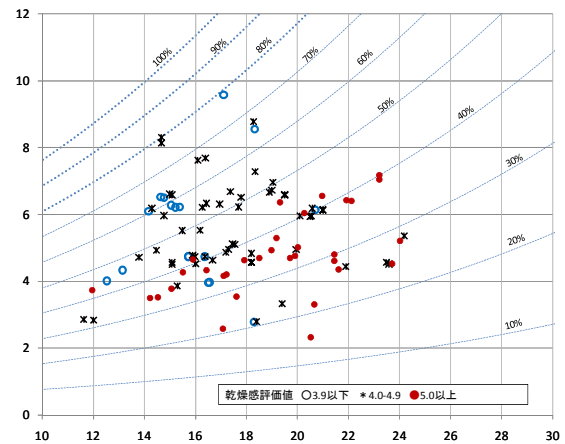


図4 寝室(起床時)の室内環境と乾燥感評価

研究の成果

居住者の半数以上が乾燥感を感じており、乾燥を問題と捉えている人が多いなど、乾燥感に悩んでいる人が多数見られます。皮膚、鼻やのどの乾燥などを訴えている人のうち13.3%が乾燥を理由として通院したことがあり乾燥が健康に被害を及ぼしている実態が明らかとなりました。乾燥感、室内環境との関連がみられ、寝室の相対湿度40%以下になると乾燥を感じる人が増える傾向が分かりました。これらの成果をもとに、乾燥感の低減のためにどのように室内環境を形成していけばよいか新たな研究に取り組みます。